

# ぶんかざい おおた

令和4（2022）年10月 発行

大田区教育委員会 大田図書館 編集  
文化財担当

〒143-0025  
東京都大田区南馬込五丁目11番13号  
（大田区立郷土博物館内）  
TEL 03-3777-1281 FAX 03-3777-1283

## 目次

- ◆特集 日蓮宗と大田区の文化財…………… 1
- ◆都史跡指定70周年記念！宝萊山古墳…………… 4
- ◇令和3年度事業報告…………… 6
- ◇新刊のご案内…………… 6
- ◇令和4年度文化財公開見学会のお知らせ…………… 6

## 第25号

### 特集 にちれんしゅう 日蓮宗と大田区の文化財



東京都指定旧跡 にちれんしゅうにんにゅうめつ 日蓮上人入滅の旧跡（本行寺内）

令和4年（2022）は、日蓮宗の開祖・日蓮（1222-82）が生誕して800年、没して740年という節目の年となります。日蓮の生誕地は鴨川（千葉県）、布教の地は主に鎌倉（神奈川県）や身延山（山梨県）などであり、存命中は大田区域との所縁が深かったわけではありません。しかし、有力な信者である池上氏いけがみが当地を所領していたことで日蓮が立ち寄り、そして最期を迎えたために、後世日蓮宗の大本山として広く知られることとなりました。池上氏館のあった地を寄進して創建された大坊本行寺だいぼうほんぎょうじ（池上2-10-5）や、隣接する池上本門寺いけがみほんもんじ（池上1-1-1）は、現在でも大田区の名所となっています。

区内にはこれまで多くの日蓮宗信者や地元住民らによって寄進・造立された数々の文化財が現存しています。大田区指定文化財118件のうち、実に4割近くが日蓮宗に関連しており、区の歴史を紐解いていく上でもその存在は切り離せないものと言えます。今号では、日蓮宗にまつわる文化財の中から学芸員のイチオシをご紹介します。

## 大田区の日蓮像

にちれんにゆうめつ

日蓮入滅の地がある大田区には、日蓮宗寺院が多く所在することから、中世から近世にかけて造立された日蓮の肖像彫刻も多数伝来しています。造立年代が明らかな作例が多く、国の重要文化財は1件、大田区指定有形文化財は7件にもおよびます。中でも注目すべき作例として、池上本門寺と法養寺（池上1-19-25）に伝来した日蓮像をご紹介します。

にちれんしょうにんざどう

本門寺の日蓮聖人坐像（以下、本門寺像と記す）は、全国に伝来している日蓮の肖像彫刻の中で最も早い時期の作例です（写真1）。像内脚部の墨書から、侍従公日浄と蓮華阿闍梨日持を願主として、日蓮の七回忌にあたる正応元年（1288）に造立されたことがわかります。さらに像内には、本門寺の開山である日朗や本門寺建立のため自らの邸宅地を寄進した大仲臣（池上）宗仲らの名を刻んだ銅製骨蔵器（遺骨や遺灰などの容器）が納められています。願主の日持と骨蔵器の納入者である日朗は、日蓮が入滅直前に法門の継承者として指名した6人の本弟子に数えられる高僧です。このことから、本門寺像は日蓮を慕い生前の姿をよく知る人々によって造られたお像といえます。



写真1 池上本門寺 木造日蓮聖人坐像（重文）

本門寺像は、下着と大きな尖った僧綱襟付きの衣のみを着けた姿で彫刻され、信者から寄進された実物の法衣や袈裟を身にまとう着像として造られました。このようなつくりの日蓮像には、日蓮を生身仏としてあらわす意識や神格化する意図がこめられていると考えられています。また、右手に妙法蓮華經の經卷を持ち、僧綱襟付きの衣をまとい、大きな目をし、体格のよい姿をしているといった特徴は、後世に製作された日蓮像に踏襲されていきました。

法養寺は、もともと16世紀後半に神田三河町に開創された日蓮宗寺院です。慶長年間（1596-1615）に池上本門寺貫主の日愷が徳川家康より寺地を拝領して下谷稻荷町（現・台東区）に移転すると、幕府や大奥の祈禱所として繁栄しました。東京市の告示によって池上の現在地に移転してきたのは、明治43年（1910）のことです。法養寺日蓮聖人坐像（以下、法養寺像と記す）は、右手の經卷や僧綱襟付きの衣といった本門寺像の形式を踏襲していますが、勇壮な印象の本門寺像に比べ、端正な顔つきをしています（写真2）。



写真2 法養寺 日蓮聖人坐像（区指定）

かつて法養寺像の造立時期については、『大田区の美術工芸』（『大田区の文化財』第33集、大田区教育委員会2002年）で13世紀後半と紹介していましたが、今年度実施した再調査の結果、作風や構造から江戸時代前期にあたる17世紀頃の造立であることが判明しました。一見すると鎌倉時代の作例とも思われるほどの非常に丁寧なつくりから、江戸時代初期に幕府の重要な造仏事業に従事した京都の七条仏師周辺の仏師によって製作されたと考えられます。法養寺に伝来している史料に、4代将軍徳川家綱の正室で熱心な日蓮宗信者であった高巖院（1640-76）が下谷稻荷町時の法養寺に日蓮像を寄進したという記録があり、法養寺像はこの像にあたると思われます。七条仏師の卓抜した造形性や、女人救済の利益を説く日蓮宗に帰依した女性の信仰心を示す文化財として重要な作例です。

\*いずれの像も通常非公開

## 不受不施派と池上本門寺周辺

日蓮宗と大田区の文化財を語る上でキーワードとなるのが不受不施派です。「信者以外には施しを受けたり与えたりしない」という日蓮の教義を遵守しようとした池上本門寺擁する不受不施派は、教団存続のため権力者に取り入れた受布施派と16世紀後半頃から対立し、遂に寛永7年(1630)に江戸城で対論した末、敗れて弾圧を受ける結果となりました。

当時の本門寺貫首で不受不施派筆頭であった日樹は除歴され、翌寛永8年(1631)に配流先(長野県飯田)で没しますが、33回忌にあたる寛文3年(1663)に池上近在の信者によって造立された「日樹聖人供養塔(区指定)」が長勝寺(中央6-6-5)に現存しています。その2年前に造像された当寺の本尊(区指定・日蓮聖人坐像)も不受不施派に属す人物が開眼しており、弾圧を受けてもなお、この地域に根強い不受不施派の支持があったことがわかります。また、日樹在籍中には信奉者数百名の名が刻まれた総高4m超の五輪塔が本門寺に造立されており、その人気ぶりがうかがえます。この五輪塔は池上本門寺最大を誇り、戦災を受けながらも現存しています(写真3)。

一方、日樹排斥後の本門寺は、徳川家康の側室である養珠院(おまんの方)の帰依を受けた日遠が着任したことで、紀州徳川家をはじめ諸侯から強力な外護を得ることになり、ますますの発展を遂げました。まさに大きな転換点であったといえるでしょう。



写真3 池上本門寺 日樹聖人五輪塔 (区指定)

## 題目講と庚申塔

題目講とは、仏教の經典のうち日蓮宗が最も大切とする法華經(妙法蓮華經)の題目「南無妙法蓮華經」を、団扇太鼓を叩きながら唱える集団のことです。大田区域でも特に日蓮宗の信仰が篤かった池上、久が原、雪谷(いずれも現在の住居表示)などの地域では村落単位で題目講が結成され、同じ仏教系で「南無阿弥陀仏」を唱える念仏講と肩を並べて活動していました。寺院境内や路傍に建つ「題目塔」からは、講の活動年代や規模を把握することができます。地域における題目講の分布割合の高さは、池上本門寺を有する大田区の大きな特徴であるといえます。

他方、全国で17世紀後半頃から流行した民間信仰に庚申講があり、その活動痕跡として庚申塔(庚申供養塔)が造立されました。一般的に青面金剛や三猿などを刻むことが多いのに対し、区内には上記題目塔とは別に題目や「妙法」と刻んでいる庚申塔が散見されます(写真4)。これは日蓮宗が庚申講に影響を及ぼしたというわけではなく、題目講が庚申講も兼任していたためです。日蓮宗徒の多い地域ならではの光景といえるでしょう。庚申塔についての詳細は紙面の関係で割愛しますが、大田区ホームページ内「文化財寄稿集」にコラムを掲載しておりますのでご参照ください。



写真4 題目が刻まれた庚申塔 (仲池上2-4)



「文化財寄稿集」へのQRコード

## 都史跡指定 70 周年記念！

ほうらいさんこふん  
宝萊山古墳

今号では、昭和 27(1952) 年 4 月 1 日に東京都より史跡指定を受けてから今年で 70 周年を迎える「東京都指定史跡 宝萊山古墳」について紹介します。

宝萊山古墳は、大田区田園調布 4 丁目 4 番、区立多摩川台公園の西端に位置しています。この古墳は、大田区田園調布周辺と世田谷区野毛周辺に分布する荏原(台)古墳群の中で最も早くに築造された古墳時代前期の前方後円墳です。

宝萊山古墳が考古学界に知られる契機となったのは、昭和 9 (1934) 年、宅地造成工事のために古墳の後円部が切り崩されたことによります。後円部の頂上から約 3 m 下の中央部付近から埋葬施設の粘土槨が発見され、調査が行われました(写真 1・図 1)。この調査で出土した副葬品は、倭製(日本製)の四獣鏡 1、紡錘車形石製品 1、勾玉 4、管玉 67、丸玉 173、小玉 391、鉄刀片 10、槍形鉄器 2、刀子 1 です。

この他にも副葬品や別の埋葬施設があった可能性が考えられます。宝萊山古墳は宅地造成による土取り工事や、前方部と後円部の間に邸宅があったことなどから、古墳の詳細な形や規模など不明な部分が多く、その実態の解明が長く待たれていました。

そのような中で、区立多摩川台公園拡張部の整備に伴い、宝萊山古墳を公園の中で史跡として保存・活用するための事前調査が平成 7・8 (1995・1996) 年に行われました。この調査は、将来に備えて保存・活用するために必要最小限の調査にとどめ、発掘による古墳の損傷を少なくすることが最優先されました。

主な調査成果として、宝萊山古墳の規模が全長 97 m、後円部径 52 m、後円部高 11 m、前方部幅 37 m、前方部高 8 m と推定されました。墳形について、調査前は前方部が長形状を呈し、後円部を含め全体として「柄鏡形」とみられていましたが、前方部は「三味線の撥のように開く「撥状」を呈することが判明しました(図 2)。このような特徴から、古墳時代前期の前方後円墳の中でも古い形態であることが推定されます。

また、周溝などは設けられず、前方部の南側の墳丘裾から台地際まで張り出す突出部の存在が確認されるとともに、前方部と後円部の接続部分にあたる「くびれ部」付近で 3 世紀後半～3 世紀末、そして 4 世紀前半までに位置づけられる土器が出土しました。

これらの調査成果を踏まえ、これまで 4 世紀後半と考えられてきた古墳の築造年代が 4 世紀前半にまで遡り、宝萊山古墳は多摩川流域において最古級かつ最大級の前方後円墳であることが明らかとなりました。さらに、古代東国の古墳時代の開始を考える上で重要な古墳として歴史的に位置づけられることになったのです。



写真 1 後円部の粘土槨発見状況 [白く見える部分が粘土槨] (大田区立郷土博物館提供)

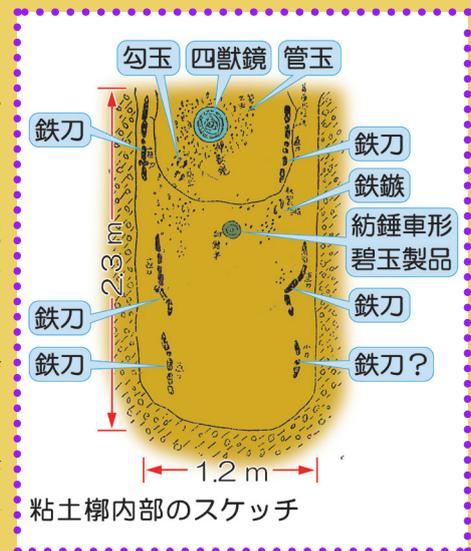


図 1 粘土槨内部の遺物配置の概念図 (原典をもとに大田区立郷土博物館作成)

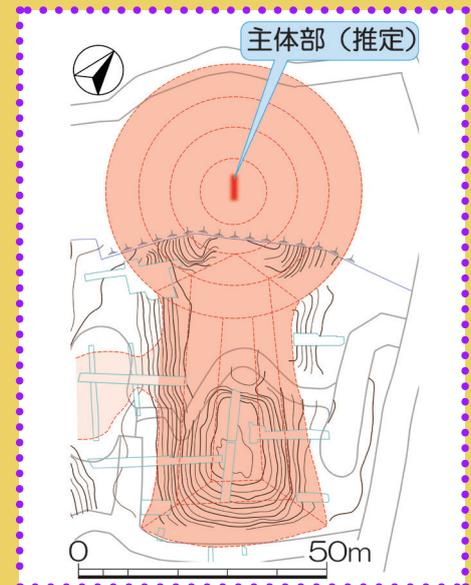


図 2 宝萊山古墳推定復元図 (原典をもとに大田区立郷土博物館作成)

## 宝萊山古墳の位置と周辺の古墳

宝萊山古墳（前方部墳頂の標高 41.8 m）を有する荏原（台）古墳群が立地しているのは、武蔵野台地の南に位置する舌状台地の尾根部分です。その他、付近で古墳時代前期に築かれた主な古墳は、港区の台地縁辺中央部に位置する芝丸山古墳や、鶴見川の奥まった谷筋に位置する稲荷前古墳第 16 号墳、多摩川下流域の宝萊山古墳に隣接する亀甲山古墳などで、どれも台地縁辺部か河川流域に築かれました（図 3）。

古墳時代中期になると、古墳の分布は、世田谷区側の野毛大塚古墳や御岳山古墳など荏原（台）古墳群に集約されるような様相を見せ、武蔵野台地縁辺部が前期から継続して古墳造営の中心地であったことがわかります。

その後の、古墳時代後期～終末期では、荏原（台）古墳群内の多摩川台古墳群をはじめとして武蔵野台地各所に大～小規模の古墳が築造されるとともに、墳丘を有しない横穴墓も多数分布し始めました。

このような変遷がみられる武蔵野台地で、最古級の古墳が宝萊山古墳と考えられています。

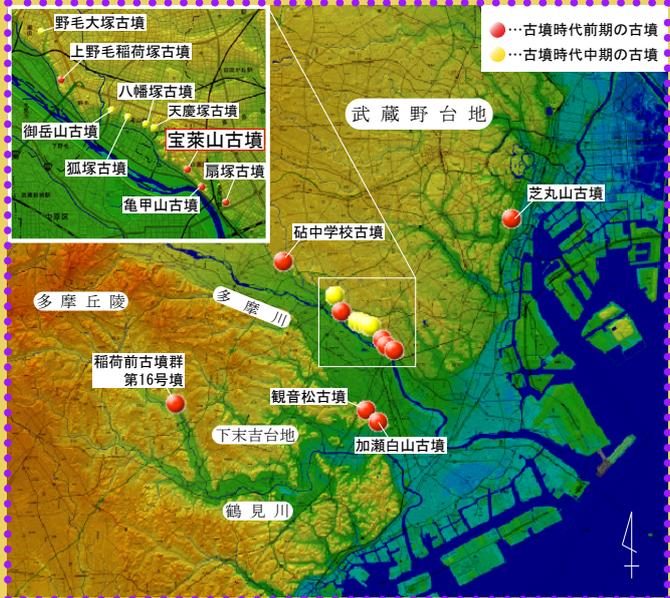


図 3 武蔵野台地とその周辺の主な前期・中期古墳分布図  
（国土地理院電子国土 Web をもとに筆者加工・加筆）

## 古墳時代の武蔵野台地縁辺部の景観

宝萊山古墳が立地する武蔵野台地縁辺部が南関東を代表する古墳の造営地として選択された仮説の一つは、多摩川の河口左岸に位置し、多摩川と並行するという景観にあります。古墳時代当時、海から交易などで新しく訪れた人々が、東京湾に海路で南から入っていくと左前方に見えてくるのが武蔵野台地です。現在は埋め立てなどで旧海岸線の位置が判然としませんが、現在よりさらに海に近く、大きく張り出しており、自然の目印のようになっていたとみられます。また、関東平野の奥へ向かう交易ルートである多摩川を遡上するときに、はじめに右側で目にとまる高台は荏原（台）古墳群の位置になります（図 4）。

この地域一帯を治めていた首長や豪族にとっては、このような要衝に大規模な古墳を造ることで権威の象徴とする一方で、多摩川の対岸一帯や東京湾を見通すことができ、多摩川を往来する舟を把握することも出来たと考えられます。現在でもその眺望を多摩川台公園や隣接する浅間神社古墳（古墳時代後期）の上に建つ浅間神社境内から見る事が出来ます。

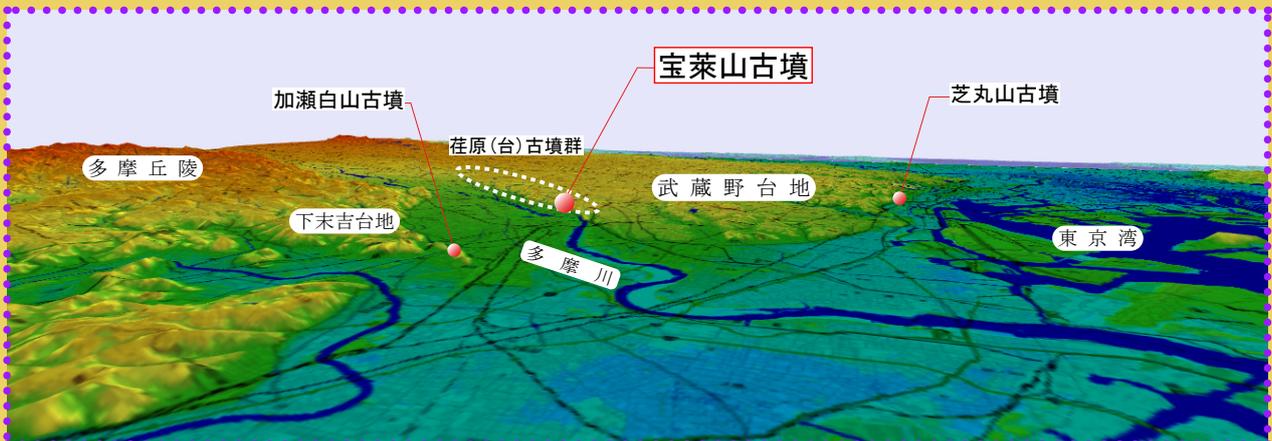


図 4 東京湾南東側からみる宝萊山古墳の位置 3D鳥瞰図（国土地理院電子国土 Web をもとに筆者加工・加筆）

# 事業報告

## 令和3年度 文化財公開見学会

令和3年度は、10月16日（土）に安養寺（西六郷2-33-10）で文化財公開見学会「古川薬師・安養寺の仏像一薬師（修理前）・釈迦（修理中）・阿弥陀（修理完了）」が開催されました。例年の公開見学会は、一定人数に対して講師による対面解説を行う形式でしたが、今回は新型コロナウイルス感染防止の観点から時間を設けての会場開放とし、来場者には山本 勉先生（鎌倉国宝館長・半蔵門ミュージアム館長・大田区文化財保護審議会委員）監修の解説資料を配布しました。

対象の三体（いずれも都指定文化財）は通常非公開であることに加え、平成28年（2016）から計9年間にわたる修理事業の最中であることから、修理前後の姿が比較できる貴重な機会であったため、地元の方だけでなく遠方から多くの仏像ファンや山本先生ファンの方にもご来場いただきました。



公開見学会の様子



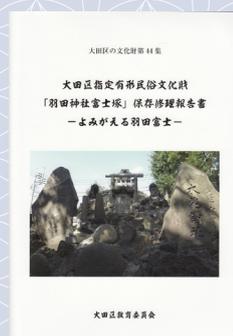
修理前後の阿弥陀如来像（左が修理後）

# 新刊のご案内

販売場所：郷土博物館  
区役所2階区政情報コーナー

## 大田区指定有形民俗文化財「羽田神社富士塚」保存修理報告書 『大田区の文化財』第44集

令和元年度に解体修理工事を実施した羽田神社富士塚に関する報告書です。保存修理の経緯や工程のほか、大田区近郊での富士講の活動や歴史、更に羽田神社富士塚にも関わる「羽田木花講」から郷土博物館に寄贈された資料の紹介など、充実した内容を収録しています。また、本書は『大田区の文化財』シリーズ初となるオールカラー印刷が実現しました。価格は1冊2,000円です。



本書の表紙

## 令和4年度 文化財公開見学会のお知らせ

東京文化財ウィーク 2022 企画事業

### 「法養寺の日蓮聖人像」

日時：令和4年11月19日（土）

10：00～15：30（最終入場は15：00）

会場：法養寺（池上1-19-25）

その他：入場無料。直接会場へお越しください。

来場者には山本勉先生監修の解説資料をお配りします。

問合せ先：大田区教育委員会文化財担当

（電話番号：03-3777-1281）